

# 令和元年度 学校関係者評価報告書

学校法人水野学園  
専門学校 ヒコ・みづのジュエリーカレッジ  
学校関係者評価委員会

学校法人水野学園 専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ「学校関係者評価委員会」は、令和元年度自己点検・自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

## 1. 開催について

コロナ禍により会合スタイルは実施せず、評価及びご意見は文書によりいただいた。

## 2. 学校関係者評価委員

### ・ 関連業界等関係者

西田 良洋 様  
竹岡 一男 様  
飯嶋 薫 様  
吉田 昌充 様  
横山 裕 様  
藤田 大 様  
大澤 重仁 様  
野村 俊一 様

一般社団法人日本ジュエリー協会 理事  
一般社団法人日本時計協会 エキスパート  
一般財団法人ファッション産業人材育成機構 理事  
東日本ハンドバッグ工業組合 理事長  
株式会社桑山 デザイナー  
共栄産業株式会社 時計修理事業部 部長  
株式会社シャミオール 代表取締役社長  
有限会社野村製作所 代表取締役

## 3. 評価方法および評価点について

- ・ 会則に基づき、学校関係者評価委員は、自己点検評価の結果を評価する。
- ・ 評価点は、学校関係者評価委員の評価点の平均値を表記した。  
★評価点基準・・・ 4＝適切 3＝ほぼ適切 2＝やや不適切 1＝不適切

## ◆評価項目の現状および自己点検・課題・今後の改善策等

項目 1	教育理念・目的・育成人材像等		
【現状】	1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	教育理念は、学生ハンドブックに掲載し、年初のオリエンテーションで配布・学生周知が進められている。前年度から具体的検討が行われていた3つのポリシー（ディプロマ、カリキュラム、アドミッション）をまとめ、HPIにて公表した。
	2	学校の将来構想を抱いているか	毎月2回実施される「経営会議」において、構想および検討がなされ、両校を通じ社会人教育の充実を図っていく必要性が話し合われた。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	3つのポリシーは昨年設定され、学校HPを通じて公開されているが、まだ教職員間に十分に浸透しているとは言えない。2020年度は期首、および期末に3つのポリシーと照らし合わせてカリキュラムの立案と検証を行う予定である。また、HPだけではなく就職用パンフなどにも記載をし、ガイダンスを通して入学検討者および在校生に広く周知していく予定である。		評価点平均
【関係者評価・意見等】	自己点検はおおむね適切と思われる。 各コースや教職員への浸透方法を具体的に検討してほしい。		3.83

項目 2	学校運営		
【現状】	3	教育理念・目的等に沿った運営方針を定めているか	学校の理念、目的、育成人材像をふまえ、「経営会議」にて運営方針を定めている。設定された運営方針は、各部署長を通じ、全教職員に周知されている。
	4	中長期的な事業計画を定めているか	学校の事業計画は学校長を中心に定めている。変動する学生数、学費収入、教室使用状況、支出などを鑑み、人事計画・人件費計画は、10年後までを見据えた事業計画を定めている。
	5	運営組織や意思決定機能は明確化されているか、また有効に機能しているか	理事長、学校長、各部門長により、毎月2回「経営会議」を実施し、学校運営全般についての情報の共有ならびに意思決定を都度実施している。また、全教職員を対象とした「教職員会議」を年4回実施し、全教職員への運営方針の周知徹底を図っている。
	6	人事・給与に関する規定等は整備されているか	人事・給与に関する規定「就業規則」「給与規程」等、自由に閲覧できる環境を整えている。“採用、試用期間、休職等”については「就業規則」に記載され、“昇給、各種手当、賞与等”については「給与規程」にて明確に定め、適切に運用している。
	7	情報システム化等による業務効率化が図られているか	専任の情報システム担当職員を置いている。各部署のデータを共有し、学生サービスおよび業務効率を高めるべく、システムを構築・運営している。学生管理においては㈱サーブネットの「School Leader」を利用し、大幅な業務効率化が図られている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>上記の通り、しっかりと実行されていると評価できる。</p> <p>将来における既存コースの学生減も視野に入れながら、新学校の開発に着手している。健全な学校運営を維持する上で新規プロジェクトは必然であり、学校の可能性をさらに広げるものとして実現に向けて検討中である。</p> <p>水野学園として新学校の具体的な校舎設計、アドバイザーの選定を実施してきた。また、大阪の自転車コースの募集を展開し、定員人数に達する募集に成功している。情報システムについては、学校と学生の直接的で双方向的な情報交換を行えるようにアプリケーションの導入を準備した。2020年導入。</p>		評価点平均
【関係者評価・意見等】	<p>自己点検は適切と思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>働き方改革の検討をお願いしたい。</li> <li>ウィズコロナ環境下での学生に寄り添う運営を検討してほしい。</li> </ul>		4.00

項目 3	教育活動		
【現状】	8	各コースのカリキュラムは目標が設定されているか、また体系的に編成されているか	各コース、学年での教育到達レベルが設定されており、そこに到達するためのカリキュラムが体系的に編成されている。カリキュラム内容については日々活発に意見が交換されており、2019年度も見直しを行った。
	9	教育方法は適正か、また授業評価の実施・評価体制はあるか	教育方法(個人の指導力に対する評価)については「ティーチング・アセスメント」を導入し、実際の授業を見学、改善点を指摘し相互評価を行った。 また授業評価に関しては、学生による授業評価アンケートを9月に実施し、学生の評価を教員にフィードバックした。
	10	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	学内に教育顧問の職責をもった教員をおいている。
	11	教員組織体制が確立しているか、また教員間の連携・協力体制を構築しているか	学校長以下、教育部長、コースディレクターが教員組織を取りまとめており、組織図を共有して指揮命令系統を明確にしている。 カリキュラムの交流、学校行事ごとの分科会などを通じて、教員間の連携・協力体制は整っている。
	12	成績評価や進級・卒業認定の基準は明確になっているか	学則にて明記されており、学生ハンドブックにて周知している。進級・卒業認定は、科目履修状況、出席率、授業態度、成績を総合的に判断し、学校長以下教職員の判定会議にて認定されている。
	13	資格取得の指導体制はあるか	学生および教員自身の資格取得に際する指導体制が整っている。貴金属装身具技能検定については放課後にゼミを実施。 3級で55名、2級で18名の希望者に指導を行った。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>今年度も同様に教員の指導力研修においてはビジネスコンサルタントに協力を仰ぎ、本校の状況に合わせたクラスマネジメントのケーススタディを作成実施していただいた。特に今年度は新人だけでなく、ベテラン教員も新人のブラッシュアップをサポートしながら自身のインストラクションを見直す機会を作った。また、学生の学習目標を高めるため、学生による学生のための学習発表会(PRESENTATIONS!)を実施した。学科を超えて仲間の成長をたたえ合い、学びの広がりを確認できたことは教員にとっても刺激的であった。</p> <p>&lt;課題・今後の改善方策等&gt; 学生による学生のための学習発表会(PRESENTATIONS!)など、学生の成果を保護者にも伝える機会をもっと増やすべきであるとの意見が多く出た。今後はオンラインを含め保護者の参加を広く視野に入れ実施していきたい。</p>		評価点平均
【関係者評価・意見等】	<p>自己点検はおおむね適切と思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種技能検定の指導体制のさらなる充実を望みます。</li> <li>・学科を超えた交流、市場へのトライ、市場視察定点観測などのカリキュラムも検討してほしい。</li> <li>・WOSTEPコースの復活をお願いします(入学や就職の優位性が望めるはずです)。</li> <li>・常に社会との接点を探るべく、より多くのイベント・カリキュラムが必要と思う。</li> </ul>		3.33

項目 4	学修成果	
【現状】	14	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか 2020年3月31日現在、全学科平均の求職者就職率は99.2%(昨99.2%)で、昨年同様、非常に高い結果を残した。
	15	資格取得率の向上が図られているか ジュエリーコースの「貴金属装身具製作技能検定」の受験結果は、3級合格率56%(昨49%)、2級合格率58%(昨58%)だった。東京都の合格率はそれぞれ52%、48%で特に2級の合格率は平均を大きく上回った。 ウォッチコースの「時計修理技能士検定」については、3級合格率81%(昨88%)、2級合格率54%(昨64%)だった。東京都の合格率はそれぞれ79%、52%で、ほぼ平均的な数値となった。
	16	在校生・卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか 在校生に対しては外部の各種コンテストや発表会・展示会などに参加することを奨励し、卒業生に関しては、同窓会や教員、教務進路職員との関係を通じ、その活躍の把握に努めることとしている。 在校生・卒業生の実績は「入学案内」やホームページなどで常に紹介し、在校生の学習意欲の向上や、卒業生への情報発信、入学検討者等への学校PRに役立っている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記の通り、適正に実施されていると判断している。	
	4年目を迎えるHELLO(リクルート内覧会)は予定通りジュエリー・シューズ・ウォッチ・バッグの全てのコースにて実施することができた。学生の就職活動のきっかけとしても大いに成功したが、企業の方のニーズを知る本校教職員にとっても意義のあるイベントに成長した。 <課題・今後の改善方策等> 資格取得については、ジュエリー・ウォッチコースと、シューズ・バッグコースでは、参加意識の高さにやや隔たりがある。今後は学生・教員ともに、啓蒙する必要がある。	
【関係者評価・意見等】	自己点検はおおむね適切と思われる。 ・資格取得に対してコース別の比較や対策を検討してもらいたい。 ・「時計修理技能士検定」2級の合格率がもう少し上がると良いと思う(基本的な修理に対する考えがうすいと不合格になります)。	
	評価点平均	3.33

項目 5		学生支援	
【現状】	17	就職・進学指導に関する体制は整備されているか	教員・教務と進路が連動することで、より良い学生指導を行っている。進路指導についてはキャリアガイダンスを卒業前年度11月から実施し、業界知識や業種職種研究、求められる人材像の説明および自己分析を指導した。企業就職希望者に対しては、3月以降に就職活動のための具体的なノウハウ指導を行うと同時に、専用のWEBサイトにおいて求人公開を行った。
	18	中途退学者が継続して学びたい場合の支援体制、または代替えコースが設置されているか	ジュエリーの途中退学者に対しては、キャリアスクール(付帯教育、昼夜、時間登録制)への転校を進めている。一部の退学者は、授業単価も割安で、提出期限のない課題を自分のペースで学べるこのコースを選択する場合もある。ウオッチは4月開講のキャリアスクール(夜)を運営しており、3月で進級不可等による中途退学の場合は、同様にキャリアスクールでの再受講を促している。シューズ・バッグのコースには再受講コースが存在しない。専門課程での再受講を希望した場合、途中退学・除籍者であっても、再入学の資格を認めており、試験等で合格すれば、再入学を認めることにしている(2019年度は留学生の再入学が1名あった)。
	19	学生相談に関する体制は整備されているか	従来通りクラス担任と学科担当教務の連携による学生の就学指導は良く機能している。また、学生が学校長に直接意見をメールできる制度の運用などを通し、より細かい学生の相談体制を構築している。
	20	学生の経済的側面に対する支援体制が整備されているか	日本学生支援機構等、公的奨学金以外にも、家計の急変や転科による就学年数延長者に対しての水野学園独自の授業料減免制度などを設置運用している。また、学費の分納、延納などに対しても、学生個々の状況に応じて学費相談窓口にて個人相談を行っている。
	21	学生の健康管理を担う組織体制が整備されているか	学校保健法に基づき、5月に学内において全学生の健康診断を実施した。診断結果が悪かった学生には、健康管理について個別に案内・指導している。また、学内においての学生の急な傷病に対しても、保健室やAED装置の設置をはじめ、救急箱の完備や緊急搬送医院の一覧マニュアルなども完備している。
	22	保護者と適切に連携しているか	2019年度も、8月と11月に、学生の出席率、課題提出状況、単位取得状況を、担任の個別コメントを添えて保護者に送付した。この際、保護者に学園全体の教育内容などについて理解を深めてもらうことを目的に「水野学園通信」という小冊子を作成し同封している。
	23	卒業生への支援体制はあるか	卒業生は全員水野学園同窓会の終身会員として登録され、転職相談や進学等についての支援を受けることができる。2017年度に導入した報奨制度「同窓会賞」は継続しており、独立開業や再進学のための支援となっている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記のとおり、学生支援体制は整備されていると評価している。		評価点平均
【関係者評価・意見等】	自己点検はおおむね適切と思われる。 ・卒業生へのヒアリングとそのフィードバックを在校生に実施してもらいたい。 ・入社後のフォローや卒業生交流会などを実施してみたい。		3.67

項目 6	教育環境		
【現状】	24	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	施設・設備の改修／修繕／交換／導入は年度ごとに計画的に整備をしている。各教室ごとの責任者を決め、常に点検している。教室以外の施設として、図書室・学生ホールなどの環境を整えており、年1回の学生アンケートの実施を活用し改善に努めている。
	25	学外学習やインターンシップなどの教育体制を整備しているか	学則カリキュラムにおいて、学年全コースに「学外授業」を義務付けており、毎年、実施している。 2019年度実績は以下の通り(抜粋) ジュエリー＝宿泊研修(那須ワークショップ)、見学会(甲府企業、IJT、ミネラルショー、美術館など)、リサーチ(百貨店、ブランドショップなど) ウォッチ＝工場見学(セイコーエプソン、バンビ、シチズン狭山・吉見事業所)、アトリエ見学(スウォッチグループジャパンカスタマーサービス)、ブティック研修(オメガ) シューズ＝宿泊研修(ムーンスター加硫製法、新潟ワークショップ)、工場見学(カネコヒール工場、栃木レザータンナー工場、世界長ユニオン鎌ヶ谷工場)、リーガル資料館見学 バッグ＝浅草・浅草橋案内、工場見学(栃木レザータンナー工場)、学外セミナー(イタリアンベジタン革協会主催セミナー)
	26	防災に対する体制は整備されているか	学生対象／教職員対象の2種類の防災訓練を毎年実施。教職員対象の防災訓練においては、災害発生直後から宿泊するまでを想定した実践的な訓練を行っている。防災マニュアルの作成・完備や緊急地震速報に対応したシステムの設置、5日分の非常食を完備するなど、防災体制を整えている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	在校生向けのアプリケーションの開発により、以前に比べて学校情報が入手しやすくなった。また、校内Wi-Fiの拡充でオンライン授業に向けた学習環境は整いつつある。年間を通して所属する学科以外の学生との交流などを設け、分野を超えた学生同士の学びの場を増やしたことも特徴的であった。		評価点平均
【関係者評価・意見等】	自己点検はおおむね適切と思われる。 ・インターンシップや学外学習(メーカー見学など)のさらなる充実を望みます。 ・セミナーの積極的参加、インターンシップの活用、メーカー見学などは小さなグループで数多く見ると良いと思う。 ・時計教材、設備には費用がかかる。弊社もできる限り協力していくし、外装・ムーブメントなどの各企業に支援を求めていくことを検討していきましょう。 ・オンライン授業の方向性も検討してもらいたい。		3.67

項目 7	学生の募集と受け入れ	
【現状】	27	学生募集活動は、適正に行われているか 募集案内の記載内容については学生が明瞭に理解できるよう十分に配慮して作成している。募集内容は、稟議を経て理事長、学校長の決裁を受けて作成されているものであり、学内でのチェック体制は整備されている。資料請求者、入学志願者の相談内容はデータ管理され、個人情報に留意しつつ、適切な対応ができる体制が整っている。
	28	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか AO入学については全員と面接、推薦入学および一般入学については入学願書・調査書の内容により、どちらも本校で学習することに対する意思の確かさ、粘り強く物事にとり組める姿勢を出願者の選考基準としている。留学生については全員と面接を実施し、日本語能力・学費等支払い能力を総合的に判断する。
	29	学納金は妥当なものとなっているか 本校が提供する教育内容、施設等や他校の状況、社会全体の経済状況等を踏まえ、妥当な金額であると考えている。金額および支払時期については募集要項に明記している。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	例年通り、適正に実施されていると評価している。	
	18才人口の減少に伴い、大学生/社会人向けの広報活動も随時実施している。また、留学生の募集については、留日志向の強いアジア圏からの留学生を中心に広報活動を実施。中国、韓国、台湾のほか、ベトナム、ネパールやマレーシアなど14か国から留学生を受け入れている。アジア圏以外では、ロシア、スイス、スウェーデン、フランス出身者が本学園で学んでいる。	
【関係者評価・意見等】	自己点検は適切と思われる。 ・拡大傾向にあり好ましい。 ・学生募集は学校経営の生命線である。募集活動に最適投資をお願いしたい。	
		評価点平均
		4.00



項目 8	財務		
【現状】	30	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	入学者の確保や休退学などの離脱者を減らすことにより、健全な財務状況を維持している。将来5年程度の見込みについて随時分析している。
	31	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	予算は、前年度末に翌年の予算案を作成し、理事長・学校長の決済を受けた上で、評議委員会・理事会の承認を受けて決定している。本部各部門の責任者は、承認・決裁を受けた予算に基づき、各部門の年度計画を定め、理事長、学校長の承認を受けて、予算を管理・執行している。
	32	財務について会計監査が適正におこなわれているか	顧問税理士の指導を受けながら適正な会計処理を行っている。 例年5月に、監事2名による会計監査を行っているが、2019年度決算については、新型コロナウイルスによる国税庁の通達を踏まえて、6/末を目途に完了する予定とした。
	33	財務情報公開の体制整備はできているか	財務情報は学園ホームページにて公開している。 関係者より財務諸表等の閲覧請求があった場合は、閲覧規定に則った対応ができる体制を整えている。 2019年度決算の公開は、上記会計監査後にすみやかに公開することになっている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記のとおり、適正に管理・運営されていると評価している。		評価点平均
【関係者評価・意見等】	自己点検は適切と思われる。 ・健全な運営で良好である。 ・財務情報を公開していることは評価に値する。		4.00

項目 9	法令等の遵守	
【現状】	34	関係法令・設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか、また個人情報保護に関して十分な対策が練られているか 給与規程、個人情報保護規程、文書保存規程など、各規程に則り、法令順守についての総合的な管理にあたっている。前述規程等は、常時閲覧できる場所に保管し、適宜確認・利用できる環境を整えている。顧問弁護士と契約しており、随時相談可能な体制を整えている。個人情報保護に関しては、個人情報保護規程を全教職員へ説明し、この規程に則って運用している。また、マイナンバーについても、特定個人情報取扱規程を策定し、適正に運用している。
	35	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 自己点検・自己評価委員会を設置し、問題点の改善に努めている。
	36	学校関係者評価委員会を実施しその結果を公開しているか 毎年、「自己点検・自己評価報告書」を元に、学校関係者評価委員会を開催し、その結果をHP上で公開している。
	37	教育情報の公開は適正に行われているか 前述の各報告書のほか、「学校情報」を各年度ごとに更新し、HP上で公開している。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	例年通り、適正に実施されていると評価してる。 学校教育法、私立学校法、学校保健法、税法等の法令を遵守して学校運営が適正に行われている。 自己点検・自己評価報告書、学校関係者評価委員会議事録、学校情報は、毎年ホームページにて公開することとしている。	評価点平均 4.00
【関係者評価・意見等】	自己点検は適切と思われる。 ・適正に実施されていて良好です。	

項目 10	社会貢献		
【現状】	38	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	6月には、渋谷区観光協会の協賛を受け、神南校舎にて「時の記念日イベント」を開催した。また、11月に開催した学園祭「MUG」では、約1500人の来場があった。いずれも学校での成果を社会に発信するとともに、地域の活性化に貢献した。 ≪技術講習会・社員教育を実施した関連団体・企業様一覧≫ 日本時計輸入協会様／日新堂様／LVMHウオッチ・ジュエリージャパン様／ヴァン クリーフ&アーペル様／香港貿易発展局様／LVJ (ルイヴィトンジャパン)様／プラダ ジャパン様
	39	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	ボランティア情報を収集し、ポスターを制作して学内に掲示した。 少しでも社会貢献への取り組みを学生に奨励できた。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	適正に実施されたと評価してる。 ウォッチメーカーコースだけでなく他のコースでも徐々に研修依頼が増えてきた。また、廃棄される真珠の再利用、金属アレルギー協会などへの協力など学科によって差があるが、社会貢献に参画する企画が増えてきた。今後はもっと増やしていきたい。		評価点平均
	【関係者評価・意見等】 自己点検はおおむね適切と思われる。 ・激変する渋谷、原宿への地域貢献を更に充実してほしい。 ・より一層の充実を望みます。		3.83

項目 11	国際交流	
【現状】	40	留学生の受入れ・在籍管理等において適切な管理体制が整備されているか 教務進路課内に「留学生センター」を設置し、入学相談室留学生担当と連携のもと、在学する全留学生の在留資格管理をはじめ、資格外活動(アルバイト)状況の把握などに努めている。2017年度からは、学生のビザ更新を学校が代行する「取次申請」を開始した。ビザ更新のために学校を欠席しなくてよくなった。適切な管理は継続されており、2019年度も入国管理局より「適正校」の認定を受けた。取次申請は41件行ったが、更新不可者は1人も出なかった。
	41	グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みが行われているか 国際的な視野・感性を養うことを目的として外国から多くの作家・アーティスト等を招聘し、セミナーやワークショップを開催している。2019年度の実績は以下の通り。 [イタリア]Maria Sole Ferragamo氏 ジュエリーアーティスト [ベルギー]ネダ・エル・アスマー氏 アントワープ王立芸術大学教授 [スイス]クリストフ・ゼルヴェガー氏 ジュエリーアーティスト [アメリカ]ダイアン・ベッカー氏 伊在住のクリエイティブコンサルタント、アドバイザー [オランダ]レネ バン デン バーグ氏 シューズクリエイター  また、毎年恒例となっている海外大学の交換留学については、2019年度は春期(4月～7月)に2名の交換留学生を受け入れた。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	適正に実施されていると評価してる。 上記招聘作家など、毎年国際交流や特別授業を定期的実施している。また、国際コンペティションなどに参加する学生も増え、自ら海外渡航する学生も増えてきた。2019年度は中国に市場調査を目的とした研修なども行った。	
	評価点平均  4.00	
【関係者評価・意見等】	自己点検は適切と思われる。 ・渡航解除を前提にネットワークの更なる充実を望みます。 ・より一層の充実を希望します。	